



やれば できること ～秋の深まりの中で～

校長 菅原 桂吾

今年度も、早7ヶ月が過ぎようとしています。この間、コロナ感染防止に努めながら、子どもたちの学びを保障するための教育活動を工夫し、実施しているところであります。

残念だったのは、8月12日から1月あまりにわたり、変異株の感染急拡大に伴い、岩手緊急事態宣言が発令され、9月以降に予定していた多くの行事の見直しを強いられたことです。特に、校外活動である修学旅行、宿泊学習、高等部 Try スポーツ等が中止、延期、内容変更を余儀なくされ、大きな影響を受けてしまいました。

中でも、県特別支援学校スポーツ交流大会である Try スポーツは、2年続けての中止となり、会場となる北上総合運動公園陸上競技場の本格的なトラック、フィールドで、思いっきり走り、跳び、投げる経験をさせてあげることができず、とても心が痛みました。それでも、学部の先生方は、それまでの生徒の取組を無駄にしないためにも、他校生徒との交流はかなわずとも、校内でのミニ Try スポーツ大会を企画し、見事成功させてくれました。秋晴れの下、スポーツならではの、スポーツを介することで仲間と交流することで生まれる、爽やかな高揚感を共有する時間となりました。一関清明でのページにまた一つの彩りを加えてくれたものと思います。終わった後の彼ら皆の顔に浮かぶ、「共に在る」ことの喜び、かけがえのない青春のまばゆさを見ることができました。

もうひとつ、エピソードを紹介します。それは、9月13日に行われたあすなろ分教室高等部3年のバーチャル修学旅行です。実際の修学旅行は、中止になりましたが、それでも、担任の先生は、3人の生徒に、学校生活最後の修学旅行の思い出をと、このバーチャル修学旅行を企画しました。予め撮影された目的地の巖美溪までの車窓からの映像をスクリーンに映し出し、板の下にボールを置き、その上にバギーを乗せて、前後左右に揺れるようにして、まるで本当にバスに乗ったようにしたり、溪流の奏でる清冽な音を聴きながら、籠に入って届けられた巖美溪名物「郭公だんご」ならぬ「郭公アイス」を賞味したりと、趣向を凝らしたバーチャル修学旅行を楽しんだということです。特に、普段、病棟では食べることのないアイス（もちろん病院の許可をいただいて）は、大好評だったそうです。3人には、とてもすてきなプレゼントになったと思います。

さて、秋も深まり、子どもたちも、さまざまな「秋」を体験しながら、毎日元気に登校しています。今月9日の山目校舎からスタートした清明祭も、20日のあすなろ分教室、23日千厩分教室小学部、24日同中学部へと続いて開催され、残すは、11月6日の本校舎のみとなりました。人数制限で、たくさんの来場者をお迎えすることはできませんが、清明祭の取組を通して、子どもたちの確かな成長を後押ししてまいりたいと思います。

令和3年度清明祭テーマ 「みんなで前進！ ～ワクワクの未来へ～」



あすなろ分教室 ～高等部3年「バーチャル修学旅行」～

外出での修学旅行は難しくなったため、あすなろ分教室では、バーチャル修学旅行を実施しました。本来ならば、厳美溪観光で経験したかったこと3つを、大型スクリーンなどを使って再現しました。1つ目は、同級生とのバスドライブ。移り変わる車窓を眺めながら、傾斜のあるボードで揺れを体感。2つ目は、厳美溪の眺めと溪流の音。ダイナミックな景観と水流の音は、映像でも迫力がありました。3つ目は、ロープ伝いにカゴを飛ばし、空飛ぶアイスクリームを堪能。最後は、みんなで記念撮影！実際に足を運べなかったことは残念ではありますが、思い出に残るひとときとなりました。



みなトモ学級（千厩分教室中学部）

～千厩中学校に向けてボッチャ体験会を企画！～

パラリンピックでは「ボッチャ競技」が注目を集め、日本勢が大活躍をしました。この盛り上がりに乗じ、千厩中学校に「ボッチャ」の楽しさを広めるべく、昼休みを利用してボッチャ体験会を企画しました。千厩中学生がたくさん来てくれて「ボッチャ楽しい！」「もっとやりたい！」と大盛況でした。審判をしてゲームを進行したり、対戦をしたりして、ボッチャを通して交流を深めています。



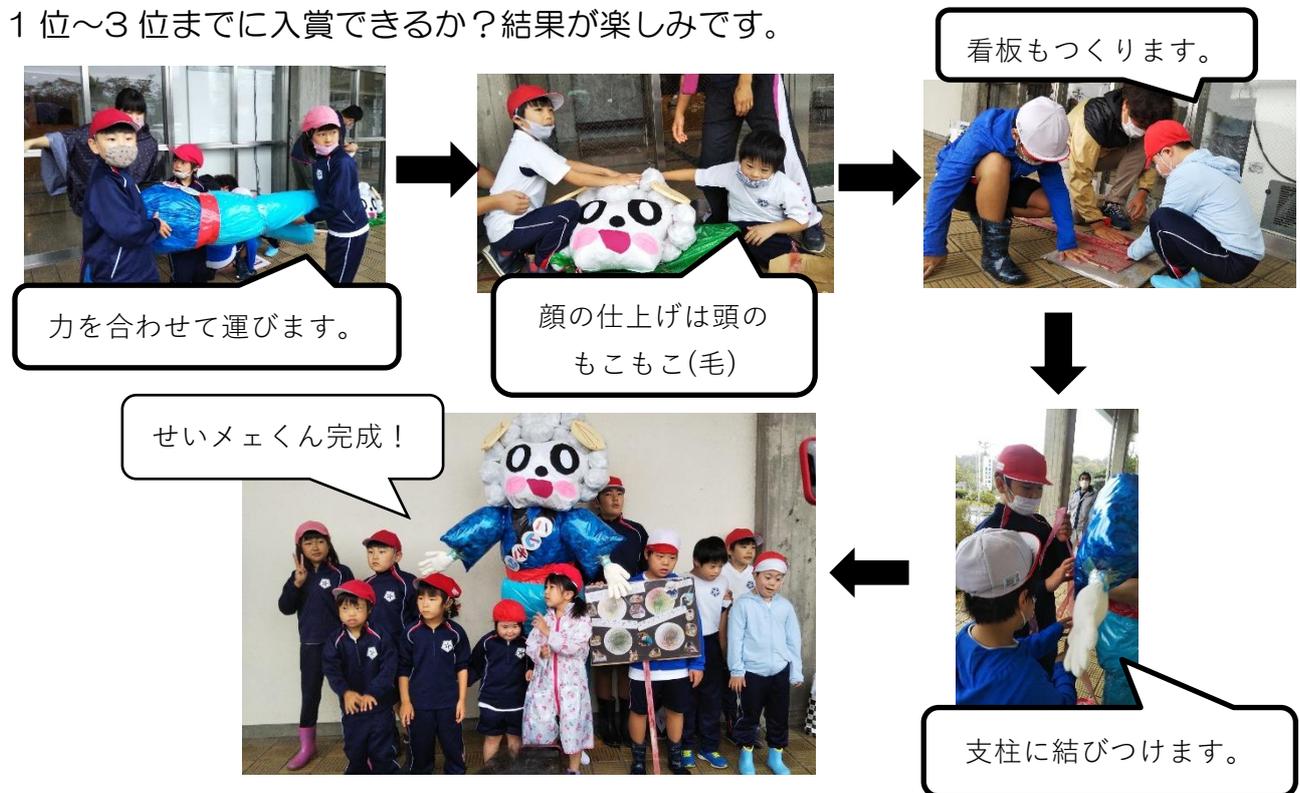
千厩中生
VS みなトモ
学級
みなトモ学
級が一步リ
ード！！



学級単位で体
験会をしていま
す。連日たくさ
んの生徒が来
ました。

ハピきら学級+みなトモ学級『かかしプロジェクト』

10月開催の千厩地区まちづくり協議会主催の『案山子大会』に出品しました。展示場所は千厩市民センターの駐車場です。ハピきら学級は、力を合わせて作ったパーツを、現地に持ち込んで、最後の仕上げをし『せいメェくん』を完成させました。人気投票で1位~3位までに入賞できるか？結果が楽しみです。



みなトモ学級は、ボッチャの金メダリスト杉村英孝選手を作りました。一関ケーブルネットワークの取材があり、設置の様子がケーブルテレビで放送されました。



速報!!!

10月20日に投票結果の発表と表彰式が行われました。

見事、ハピきらの「せいメェくん」が第3位！みなトモの「杉村選手」が第7位！それぞれ入賞しました！一関清明支援学校（というより「せいメェくん」？）の知名度を上げ、案山子の概念とダイバーシティ（多様性）の表現に挑戦した、千厩両分教室の取り組みに、「あっぱれ」!!!

第1回北海道東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会岩手大会報告

7月30日（金）に北海道と東北の病弱虚弱教育研究連盟が一つとなり、第1回の記念すべき大会がオンラインにて行われました。本校は主管校として、参加者の皆様が参加しやすい大会となるように講じた次第です。参加人数は556名、25校（北海道東北地区支援学校18校、岩手県内の病弱・身体虚弱支援学級設置校5校、埼玉県の支援学校1校）、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会より羽田会長を含め3名と多くの参加がありました。オンラインで実施のため参加者の在勤公署での参加とし、密を避けるため、本校も各校舎や分教室を会場としました。例年であれば、大会期間中に各校のPTA会長と校長先生が顔を合わせてPTA活動の話を深め情報を共有する、「PTA会長と校長との懇話会」と称する合同研修会が開催されるのですが、中止となりました。そこで、PTA活動の状況について各校から情報提供を受け、まとめた「臨時会報」を発行し、PTA会長さんにお渡ししております。



特別支援学校のセンター的機

特別支援学校は、地域における特別支援教育のセンターとして、地域の幼稚園・小中学校・高等学校からの要請に応じて、支援を必要とする児童生徒の教育に関し、必要な助言や援助を行うよう努める役割があります。その一環で、本校職員を講師として8月に実施した公開講座についてご紹介します。

公開講座① 「病弱・身体虚弱児の理解と支援」～自己理解を

小中学校の特別支援学級の先生方や看護師さんの参加があり、発達障がいや二次障がいといった理論的なことや、病弱・身体虚弱の幼児児童生徒に対する支援方法、自立活動の具体例などを通して、児童生徒に付けたい力とその支援のあり方について考える機会としました。

<アンケートから>（一部を掲載します。）

自己理解と言葉にしていれば簡単ですが、正しい自己理解とは支援とセットだということ、大変勉強になりました。「これがあればできる。」「これがなければできない。」を知ることで、自分の弱さを知るだけでなく、対処法、支援について考えることができると学びました。

自己理解

どんな仕事に就きたいの？

- ・就労先を決める際…仕事ができるかどうかだけではなく、就職してから長く働けることができるかどうかという視点が重要。
- ・雇用の継続のために…本人の特性を考慮した上で企業側の求める水準、仕事の進め方、環境調整などのすりあわせといった「ジョブマッチング」の視点が重要。

自分の得意なことや苦手なこと、苦手なことへの対処法が分かっていることで、自分にはどんな職場が合っているのか、考えることができる。

会学・社会福祉法人連法中の人々の要(2019)「特別支援学校からの発達障がい児の教育支援ニーズ」

公開講座② 「聴覚障がい児への支援」～幼小期から高等部卒業まで～



きこえについて、オーディオグラムの読みとり方、補聴器と人工内耳についてなどの基礎的な内容と、乳幼児期から高等部卒業までのそれぞれの時期に必要な支援や具体的な指導方法について、講義を行いました。

<アンケートから>（一部を掲載します。）

・聴覚障がい児への支援について、様々な角度から先生方が工夫や支援をなさっていることを知り、大変勉強になりました。